

# 抗うつ薬が本当に効く うつ病

杏林大学医学部精神神経科学教室 坪井 貴嗣

## KEY WORDS

- 抗うつ薬
- うつ病治療ガイドライン
- 基礎的介入
- プラセボ効果

## はじめに

抗うつ薬が本当に効くうつ病，というテーマを考えるにあたり，まず抗うつ薬を使うかどうかを検討する第一段階として，その病態が本当にうつ病かどうかということをしつかりと見極めなければならない。抗うつ薬が効かない難治性の病態ということで紹介されてくる患者の診断の一部は，適応障害や持続性抑うつ障害，また閾値下抑うつ状態といったものであり，正確にはうつ病の診断基準を満たさないものが含まれている。日本うつ病学会のうつ病治療ガイドラインでは，第1章の治療計画の策定の部分において治療を開始する前にうつ病と正確に診断する重要性について述べられているので，そちらもあわせて参考にしていただきたい<sup>1)</sup>。よって本稿では，米国精神医学会によって作成されたDiagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition(以下，DSM-5)

で大うつ病性障害と診断された病態に対し，抗うつ薬が効くかどうかについて考えていきたい。

## I. うつ病治療ガイドラインにおける薬物療法

前述のうつ病治療ガイドラインでは，うつ病患者全例に対して最初に行うべき治療として「基礎的介入」というものを勧めている。具体的に基礎的介入とは支持的精神療法と心理教育から成り立っているのだが，これも詳細はガイドライン本体を参照されたい<sup>1)</sup>。

特に軽症うつ病においては，基礎的介入のみで十分な治療効果があれば，それに対し薬物療法や精神療法を追加する必要がないとしている。これは，軽症うつ病では基礎的介入のみで改善するものが多いと諸外国のガイドラインやわが国のエキスパートが考えているからだけでなく，軽症うつ病に対する治療エビデンスが乏しいことも理由

What type of patients with depression respond to antidepressants?

Takashi Tsuboi (講師)